

子どもは未来への希望

このまちで育む家族の笑顔



子どもたちの元気な笑顔は、周りの大人を元気にする不思議なパワーを秘めています。

子どもたちの満面の笑みや健やかな成長を見ることが、

親が働く活力の源になり、地域を支える大きな力を生み出します。

やがて子どもが親になり、生まれ育った旭市で子を育てる……。

子どもはまちの宝であり、旭市の将来を担う未来への希望です。

旭市の少子化の現状

少子高齢化の進行は全国的にも社会問題となり、市内で1年間に生まれる子どもの数も減少(図1)しています。平成27年における旭市の出生数は498人で、昭和60年の880人から43・4%減少しています。総人口に占める15歳未満の年少人口割合も低下(図2)を続けています。

生まれる子どもの数が少なくなってきた背景には、さまざま



図 1

旭市の出生数の推移(千葉県毎月常住人口調査)

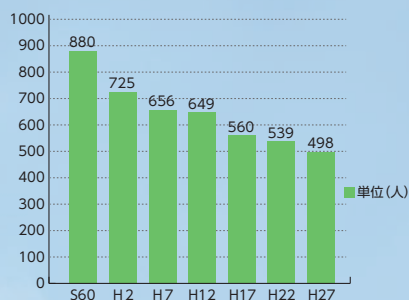
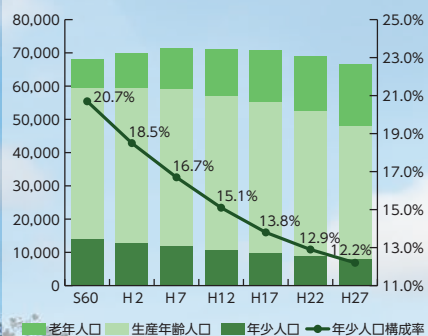


図 2

旭市の年齢3区分別人口の推移(国勢調査)



子育てに優しいまちを目指す

「子どもを持つとやりたいことが制限される」「子育ての仕方が分からない」など、子どもを持つということに、希望や喜びとともに、不安やためらいを感じている人は少なくないというのが現状です。

主な要因があります。核家族化や女性の就業スタイルの変化、地域とのつながりの希薄化などによる子育ての孤立化、若い世代の収入が増えないなど、子育てや子どもを取り巻く環境の変化が、原因の一つとして考えられています。

「子どもを持つとやりたいことが制限される」「子育ての仕方が分からない」など、子どもを持つということに、希望や喜びとともに、不安やためらいを感じている人は少なくないというのが現状です。



子育て家庭を全力応援

親になるなら旭がいいね

市では子育て世帯の不安や負担を少しでも軽減し、これから一人でも多くの子どもを持ちたいと願う人の環境を整えるため、ハニカムなどの育児支援をはじめ、旭市ならではの充実した支援を行っています。

子育ての理想をかなえる

市 が実施した調査によると「理想とする子どもの数」は「3人」が最も多かったのに対し、実際に持つ予定の子どもの数は「2人」と半数近くの人が答え、理想と現実ギャップがあることが分かります。

希望する子どもの数より、実際に持つ子どもの数が少ない理由としては「子どもを育てるのにお金が掛かる」が50・8%で最も多く、続いて「仕事に支障」「育児の体力的問題」「年齢的理由」などが挙げられます。

げられました。

経済負担を少しでも軽減し、子育てに夢を持って理想のライフスタイルを実現してもらうため、市ではさまざまな独自の子育て支援を行っています。

充実した旭市の支援

旭 市子育て支援センターハニカムでは、出産前からの子育てに関するさまざまな相談に応じているほか、親子の集いの場として利用されています。

子育ての経済的な負担を軽くするため、乳幼児紙おむつ

ハニカム利用者の声

悩みを共感してくれる仲間が増えました

5月に福島県から引っ越してきました。夏ごろからハニカムを利用していますが、ここで友達も増え、毎日楽しく過ごしています。子どもと近い年齢の子がたくさんいるので、悩みや相談事が分かち合えます。家にいると二人だけで過ごさなければならぬので、ここに来ることで気が晴れます。

旭市はとても住みやすいまちだと思います。紙おむつ購入券などもとても助かっています。2歳までなのでもう1年もらえたらうれしいかも……。

子どもが小さいときは、理由なく泣いたり夜泣きがひどかったりと疲れることが多いですが、これから子育てを始める人は一人で抱え込まないで、どんどん周りを頼っていいんだと思います。



鷗歩美さん(杏樹ちゃん)
〔イ〕

子育て世帯を応援！

子育て支援サービス

出産祝金

出産を奨励祝福するため、第2子以降の出産に対し要件を満たす父母に出産祝金を支給します。第2子は、平成28年4月1日以降の出産が対象です。

支給額／●第2子：10万円 ●第3子以降：20万円

子ども医療費助成

中学校3年生までの子どもに掛かる医療費の、全額または一部を助成します。保険診療での通院・入院・調剤の自己負担額が、無料または通院1回300円、入院1日300円になります。

乳幼児紙おむつ購入券

2歳になるまでの乳幼児を養育している人に、子ども1人当たり月額3,000円分の紙おむつ購入券を支給します。市内の指定取扱店で紙おむつを購入する際に代金の一部として利用できます。

☎子育て支援課子育て支援班(☎62-8012)

保育料第3子以降の無料化

18歳までの子どもが3人以上いる世帯で、第3子以降の子どもの保育料が無料になります。

☎子育て支援課保育班(☎62-5313)

私立幼稚園第3子以降就園補助金

18歳までの子どもが3人以上いる世帯で、第3子以降の子どもが私立幼稚園に入園した場合の入園料、保育料、給食費分の補助金を交付します。

☎教育委員会庶務課庶務班(☎55-5721)

学校給食費の減免

市内の小中学校に在学している児童生徒が3人以上の場合、3人目以降の子どもの給食費を減免することができます。

☎教育委員会学校教育課給食班(☎62-0366)



子育てをする上で特に不安に思っていることや、悩んでいることの調査では「子育てで出費がかさむ」が最も多く「自分の時間が持てない」「子育てによる身体の疲れが大きい」という回答が上

家族の支えと周囲の支え

購入券の支給や、誕生から中学校卒業までの医療費の助成を行っています。また第2子以降の出産に祝金を支給、第3子以降の保育料無料化や幼稚園就園費の補助、小中学校給食費の減免と幅広くサポートしています。

位に並びました。そんな悩みを少しでも解消し、子育ての環境をさらに整えるためには、行政が行う経済的な支援だけでなく、夫の支え、祖父母の支え、そして地域の支えが重要になってきます。夫が育児に協力してくれ、家族が理解してくれること、友人、職場、地域などの周囲が支えることが、安心して子どもを持てる環境につながります。

みんなが少しずつでも手を差し伸べることが、子育てに優しいまちをつくる一歩になるのではないのでしょうか。



コーディネーターの長澤さん(左)、佐野さん(中央)、石毛さん(右)

明るいスタッフが笑顔でお出迎え

旭市子育て支援センターハニカム

幼稚園や保育所などに入る前のお子さんと保護者を対象に、遊びの場を提供しています。子育てコーディネーターが、出産から就学までの子育てに関する相談、幼稚園や保育所などの案内も行います。館内はいつも清潔に保たれ、イベントも行っています。保護者同士の情報交換や友達作りの場としても利用できます。

一度遊びに来てみてはいかがでしょうか。

〈開館案内〉

場所／市役所南分館2階

開館日／月～土曜日 ※第5土曜日、祝日、年末年始を除く。

育児を通して地域とつながろう

子育てを応援するたくさんの手

生まれたての子どもを抱いたときから、
親という立場も誕生します。
誰でも最初は初めての経験ですから、
不安や悩みは付き物です。
一人で抱え込まずに、周りにいる
たくさんの手を頼りましょう。

一人で頑張り過ぎないで

妊 娠、出産、育児は掛け替えのない大切な時間を与えてくれる一方で、初めての経験に戸惑い悩むこともあります。初めから立派な親になれる人はいません。戸惑いも、悩みも全てひっくるめて、我が子のためにそれを引き受けられるからこそ、親になるのではないのでしょうか。飯岡保健センターでは、さまざまな事業や電話での相談を通して、そんな頑張るお母さんたちを応援しています。

「両親学級」では、新しい命を迎える上で大切にしたいことを話し、実技体験、妊婦同士や先輩ママたちとの情報交換や交流などを行い、親になる心の準備や仲間作りを手伝っています。夫婦で参加すれば、子育てを助ける関係も築けます。

出産直後はホルモンの関係で、気持ちの浮き沈みが大きくなることもあります。「赤ちゃん訪問」では、お母さんが一人で抱え込まないよう、話を十分に聞いて相談に応じています。訪問を終えたお母さんたちからは「聞いてもらってスッキリした」「泣いてもいいんだと分かりほっとした」という感想が聞



子どもの健やかな成長と 家族をサポート

健診で我が子の成長を確認

子どもの成長や発達を見る健診や、育児・食生活の相談などを月齢に合わせて行っています。

乳児健康診査／4か月ころの乳児

9～11か月児健康診査(個別健診)／9か月～11か月の乳児

1歳6か月児健康診査／1歳6か月～1歳7か月の幼児

2歳児歯科健康診査／2歳6か月ころの幼児

3歳児健康診査／3歳6か月ころの幼児

充実した教室でお母さんをサポート

子育て学級

対象／生後2～4か月の乳児と保護者

内容／子育ての悩みの相談や情報の交換、ベビーマッサージ、事故防止、乳児救急法、赤ちゃんとの遊び方など

離乳食教室

調理実習を通して、離乳食の基本と進め方を学びます。

親子遊び教室(ぞうさんクラブ)

「言葉の出始めが遅い」「子どもとの遊び方が分からない」などの悩みを持つ親子を対象に、体を使って遊んだり、歌や手遊びをしたりして楽しく過ごします。保育士、心理相談員、保健師が担当します。

子育ての仲間を作ろう

育児サークル

子どもの月齢に合わせ、さまざまなサークルが活動しています。多児や病気を抱える子どもと保護者のサークルや交流会もあり、随時加入できます。

子育てに関する相談や上記に関する問い合わせ

国岡健康管理課支援班(飯岡保健センター・☎57-3113)



鈴木沙弥香さん
(彩月ちゃん)
(二)

産後のお母さんの声

赤ちゃん訪問で不安が安心に

赤ちゃん訪問でいろいろ教えてもらえて、聞きたい事も聞けました。初めてなのでどこに問い合わせればいいかも分からず不安でしたが、話を聞けて安心できました。出産後にすぐに子どもが入院してしまったので、医療費の助成は助かりました。紙おむつ購入券も助かっています。仕事をしているので、土日に預けられる所や、相談できる所が市内にもっとあったほうがいいと思います。

保健センターでのお母さんの声

子育て学級で 話せる相手がありました

妊娠中のつわりや出産のときは大変でしたが、生まれてからは子どもが良く笑い、しゃべってくれて毎日の成長が楽しみです。大変なことがあっても、子どもの笑顔に救われています。

子育て学級では悩みや似た体験など、同世代のお母さんたちと話ができてとても有意義でした。これから妊娠される人も、赤ちゃんとの楽しい生活が待っているのだから心穏やかに過ごしてほしいです。



鬼澤亜矢さん
(樹生くん)
(蛇園)

子育てに迷い戸惑うのは、ひた向きに頑張り「こうありたい」と、子どもと真剣に向き合おうとするからではないでしょうか。でも完璧じゃなくてもいいんです。一人でも思い詰めて悩むくらいだったら、時には手抜きも必要です。大切なのはお母さんの笑顔や家族の笑顔。それは赤ちゃんにとっての大切な心の栄養です。「これでいいんだ」「ありのままの自分でいいんだ」と考え、日々の育児を通じて人や地域を頼り、つながってほしいと思います。

大切なのはお母さんの笑顔

かれました。



① 2歳児歯科健康診査 ② 育児サークル(ニコニコビーズ) ③ 赤ちゃん全戸訪問
④ 1歳6か月児健康診査 ⑤ 子育て学級

ママが元気だとみんな元気！ あなたを応援してくれる人がいます

助産師 大藏 千晴さん



飯岡保健センターで、助産師として主に赤ちゃん訪問や両親学級を担当する大藏さんに、子育てについて聞いてみました。

——赤ちゃん訪問ではどんなことをするのですか

赤ちゃん訪問は出産後4か月までの全家庭を対象に、お子さんの成長や発達、お母さんの体調を確認するものです。保健師・助産師に限定してサポートする体制は、旭市ならではの手厚い取り組みです。子育てに関するさまざまな思いや悩みを聞いて行政に伝え、育児や家事に頑張っているお母さんたちを応援しています。

——子育てに大切なことは

私を感じている大切なことは、いざというときに頼れる存在があることです。全ての育児を一人で頑張り過ぎることなく、時には他者に甘える勇気を持つこと、そんなお母さんを受け止める環境が整っていることが大切だと思います。お母さんが心も体も元気に笑顔でいることが、お子さんや家族にとつての幸せでもあり、大切にしたいと思っています。

私自身も育児のときは、周りの優しい一言や笑顔にずいぶん救われてきました。必要なのはすぐそばにいる「子育て仲間」や、温かく声を掛けてくれる「地域の人々」との出会いではないでしょうか。

——市内の子育て環境がもっと良くなるには

仕事や育児に追われ、毎日が忙しいお母さん。自分のことは後回しにフル回転

で頑張っています。そんなお母さんたちにもほんのひとときでいいから、リフレッシュして心のゆとりを得ることが必要です。

同じ子育て仲間が集える育児サークルなどで、互いに話をするだけでも癒されるものです。市内では飯岡保健センターやハニカムでその場所を提供しています。サポートしてくれる人材が増えると良いと思います。子育てを一段落された育児経験豊富な先輩方が、私たち子育て世代の良き相談相手に、預かり保育の担い手になっていただければとても心強いと思います。

——お母さんたちに一言

ずっと旭で育ったお母さん、新たに旭へ越してきたお母さん、これから旭で新しい命を誕生させるお母さん。それぞれ環境や状況は違っても、私たちは同じ旭で子育てに頑張る仲間です。子どもを生ま育てる中では、いつも元気に笑顔というわけにはいきません。それでも我が子が泣いたり、笑ったり、うれしかったり、悲しかったりをそばで見守る中、子どもたちの成長を通して私たちも一緒に成長していけたらいいですね。

旭には子育てを応援してくれる人たちがたくさんいます。子育てがより良いものとなるよう、これからも皆さんの意見を聞かせてくださいね。





家族を守り愛される父になる

イクメンで行こう!

「イクメン」は、積極的に子育てに取り組む男性のこと。イクメンがもっと多くなれば、妻である女性の生き方や家族の在り方が大きく変わり、社会全体ももっと豊かに成長します。

旭にはイクメンが多い?

市が行ったアンケートの結果でイクメンのイメージは「子どもとよく遊んでくれる」が一番多く「家事を分担してくれる」などが上位に並びました。夫が家事や育児をサポートしてくれるかの問いには、59・7%が「してくれる」と回答。家事や育児のサポートに対する点数も56・7%が「60点〜90点」とおおむね満足していて、旭市にはイクメンパパが多いことがうかがえました。

あなたも今日からイクメン

イクメンなパパだとママも気持ちに余裕ができ、互いが楽しく子育て

に関わることが出来ます。大切なのは家族みんなが笑顔でいられることではないでしょうか。自分にできることについて考え、夫婦でよく話し合い、積極的に何かに取り組んでみましょう。夫から差し伸べるサポートが、よりよい子育てには欠かせないものだと思います。

親にとって子どもの誕生や成長は、何にも替え難い大きな喜びです。親は子どもの笑顔、健やかな成長を願い、深い愛情を持って子育てを頑張っています。母親だけに子育ての責任を押し付けることなく、みんなが協力し合うことで、子育ての喜びを分かち合えるようになると思いますね。

公園で出会ったパパの声

妻への気遣いと思いやりを大切に

育児は子どものお風呂や歯磨き、家事もできれば手伝うようにしています。休日に買い物や公園などで過ごす子どもとの時間は、リラックスできるうれしいひとときです。子育てで大事なのは、育児のほとんどを任せている妻への気遣いと、相手を思いやる気持ちだと思います。言葉に出して言えませんが、感謝の気持ちも伝えていきたいと思っています。



平野大樹さん
(源樹くん・栞月ちゃん)
(江ヶ崎)